

～茶園整備で課題解決、収量・品質もアップ～

静波原基盤整備組合

農業競争力強化基盤整備事業「静波地区」



原間代表

取組のポイント

- ①小規模不整形な茶園の大区画化や園内道路、枕地の整備により、乗用型茶園管理機の導入を推進し、栽培管理の軽減や生産コストの削減を実現。
- ②農地所有適格法人を含む担い手への農地集積・集約化を推進し、農業経営の安定化を推進。
- ③全国初の茶園の農地中間管理機構関連農地整備事業を実施。基盤整備モデル地区として、他地区への波及推進の一翼を担う。

【組合の経営概要】

代 表：原間 秀樹
設 立 年：平成31年
組 合 員：67人
主要作物：茶

取組の経緯と課題

- ◆茶の一大産地である牧之原地区は、狭小かつ不整形で作業道の付いていない農地が多く、栽培管理が非効率で農地も分散していた。
- ◆茶価の低迷、農家の高齢化が進む中で、危機感を持つ担い手農家が中心となり、ほ場整備を推進するため本組合を設立。
- 「やぶきた」1品種のみを栽培していたために作業時期が集中。製茶工場や作業機械の稼働率の低下、摘採制限、品質低下。



静岡県牧之原市

課題への対応

- 話し合いをリードし、工事開始時期や苗木の確保等、営農を考慮した整備方法を検討。単年度工事を実現し、未収益期間を短縮。
- 各ほ場の畝方向と農道の配置を統一するとともに、茶園と支線農道の段差をなくすことで、乗用型茶園管理機の導入を推進。
- 事業を契機に多収量品種を含む4品種を新たに導入し、新たな農業経営を展開。



乗用型茶園管理機の導入

取組の成果

- 農地中間管理事業を活用することで地区面積6.4haのうち5.5haを担い手農家10戸に集積。
- 作業時期が分散し、機械の稼働率、収量・品質が向上。(生産コスト47%削減、収量25%増加)。
- 有志3名が法人を設立し、産地パワーアップ事業を活用し、荒茶加工工場を新設。大手飲料メーカーとの契約栽培により、農業所得の向上を実現。



新設した荒茶加工工場



整備前(集積率14.5%)



整備後(集積率87.2%)

事業概要

地 区 名：静波地区
事 業 種：農業競争力強化基盤整備事業農地中間管理機構関連農地整備事業
関係市町：静岡県牧之原市
受益面積：6.4ha
工 期：令和元年度～令和3年度
事業目的：区画整理
主要工事：揚水機場、パイプライン、農道、防霜ファン